

# 世界を変えた 14 の密約

ジャック・ペレッティ著 関美和 訳 文芸春秋

もし、私達の世界の見方が間違っていたら？ 私達の日常生活を根底から変えたのが政治家や国際的な事件ではなく、役員室やゴルフコースやバーで秘密裏に交わされた企業による密約(取引)だったら？ 気鋭のジャーナリストによる恐ろしくもスリリングな 1 冊 ( はじめに ) 企業による密約が、私達の世界を決めていた。

アラブの春の引き金となり、イスラム聖戦の第 4 の波を引き起こしたのは投機家による小麦の空売りだった。食料科学の発展によって地球に肥満が蔓延し痩せる為の商品を売り込んでいる、私達が買うものの中に疑いの種を植え付けて、薬の役割を、病を治すもの、から現代生活の一部に変えた事、義務としての税金を企業が回避すべきものにしたこと、人間の行動を自動化した事、こうした密約は冷徹に下された事業判断だった。

その核に合ったのは一つの単純な下心だ「**問題を作り出し・解決策を売る**」事だった #cash { 第 1 章 現金の消滅 } それは 1998 年スタンフォード大学の講堂で、後の、ペイパル創業者となる二人の出会いから始まった。彼らが目指した戦慄すべき世界とは 2014 年歴史上はじめてカードとオンライン決済が現金取引の金額を上回った、韓国は 2020 年迄に現金決済を全てなくす予定だ。現金の死はある計画の産物、銀行や政府によるお金の支配を終わらせ、新しい参加者の手に支配権を渡すための計画だ、その新しい参加者とは、テクノロジー企業である、この計画はある実験の結果から生まれた。それは現金の支払いが物理的な痛みを引き起こす事が神経学的にハッキリ実証され、**“現金を使うと脳波に痛みを感じる”**誰でも直感的に分かり現金は浪費を止めてくれる。

\* 金融に詳しいティール、暗号の天才レヴチン二人が出会ったのはスタンフォード大学 1998 年インターネットの黎明期、シリコンバレーの誰もがオンライン決済システムを見つけようと必死だった、二人は手を組み会社を立ち上げ社名は“コンフィニティ”だ二人は誰も目をつかなかった物品の売買に使えるパームパイロット(iphone の先駆け携帯端末)に目をつけた。

\* クレジットカードでは痛みを感じない～マサチューセッツ工科大学の神経心理学者の実験で売り切れてしまったバスケットボール試合のチケットを入札ではクレジットカードの入札額が平均すると現金の 2 倍だった、現金で支払う時に脳は計測できるだけの神経の痛みを感じ、人はその瞬間に文字通り喪失感を味わう、カードで入札する時は痛みを感じない、痛みを感じない買い物の実現できればインターネットを支配できる

\* ビジナリーのイーロン・マスクが加わる～2001 年マスクはティールと同じく支払いが脳神経の痛みを伴うという研究の重要性を理解していた、ティールは金融の専門家ジャック・セルビーを引っ張ってきた、彼らは、新会社を**ペイパル**と名付けワンクリック決済を約束した、2002 年イーベイと 150 億弗の契約を結んだ、

インターネットに市場が生まれイーベイでの7割強の売買にはペイパルが使えるようになり、彼ら4人は「ペイパル・マフィア」として知られている。

- \* インターネットを即売マシンにしたイーベイ~ウェブ2.0の初めての本物の大企業となったイーベイとペイパルが手を結んだ時インターネットは飛躍した。今では全てのテクノロジープラットフォームが取引市場になっている、グーグルは情報の取引市場でウーバーはタクシー、エアビーアンドビーは空間の、デリバラーは食事の取引市場、しかし、巨大なデジタル市場の草分けはイーベイだ。地球上のあらゆる不要物がここに集まった、靴・家具・コンサートチケット・掃除機・休日・セックス・古いカメラ・人間の臓器・用済みになった夫。買い手でなく売手がある一つの巨大な相対取引所を支配し、買い手がいくら支払う意思があるかだけ、でモノの価値が決まる。
- \* 新しい通貨は“人間”だ~私とあなたの間スペースが、誰かの儲ける場所になる。フェイスブック、アップル、グーグル、アマゾン、マイクロソフト等の巨大なテクノロジー企業が支配しているこの場所だ。お金そのものを支配する競争であり通貨を再定義する、即ちあなたが通貨になるという事だ。私達が現金の代わりに手放しているのは自分の人生についての細かい情報だ 2016年にはEU離脱を決める国民投票でも、米国の大統領選挙でも浮動票を取り込む為にその個人情報が使われ、それが選挙の行方を決めた。
- \* iphoneが新しい銀行になる~2008年iphoneは買い物をパソコンからスマホへと導いた、それが古い組織から通貨を引き離し、それから資産運用と金融サービスを支配し、最後に彼らが新しい銀行になるという筋書きだ。それを攻略する武器がアプリ。
- \* アップルが決済サービスを始める~2013年9月アップルは決済システムを立ち上げ消費者に手数料はかからず、アップルは無料化でそこでは稼がずライバルの商売を奪った、取引を仲介する事で主要な通貨プレイヤーになる事に価値を見たからだ。グーグルやフェイスブックにとってデータこそ新しい通貨となった。
- \* ザッカーバーグが先端国ケニアを視察~ザッカーバーグも又取引の仲介手数料ではなく情報が未来そのものだと知っていた 2007年モバイルマネーのM-pesaがケニア全土で利用できるようになり、これで携帯に直接お金を送金できる、国家を丸ごと実験室として使いお金の民主化を図り、送金手数料不要、銀行と現金が消滅した。1年もしない内に人口の4割利用者は14百万人、ケニアで銀行口座不要を証明したM-pesaは貧困層に力を与え、彼等に経済的な恩恵をもたらした。
- \* 麻薬資金が銀行を助ける時~IMFの推定では2007年1月~09年9月の間に欧米の銀行は不良資産と不良債権のせいで1兆弗余り失い200社超の住宅ローン業者が倒産、国連によると同時期にギャングたちが麻薬取引で得た利益は3520億ドルと推定、金融システムに注入された麻薬資金のお陰で金融機関は不法資金の洗浄に関して見て見ぬふりを決め込むようになった。

アラブの春は小麦価格の高騰が起こした。チュニジア青年を自殺に追い込んだのは、生活苦だった、彼の絶望そのものの原因は、生きる為に必要最小限度の食糧が投機の対象になった事にある。投資家たちが世界を混乱に陥れる。

- \* 世界の小麦を支配する4大食品会社～ADM、バンジ、カーギル、ルイ・ドレフュスはこの地球上で最大の食品会社(頭文字 ABCD で知られる)この4社で世界の小麦9割が支配されている、2005年食料供給を支配する ABCD 自身が危機に直面し利益率が下がった事で運命の決断を下した国際市場で穀物の供給不足に賭け始め穀物が不作なら金が儲かった、賭けに負けたら穀物の価格を上げた、世界中の小麦を空売り、どちらにしても彼らが勝つやり方だった。ほんの少しの値上げでも破壊的な影響を受けるアフリカと中東では大陸全域で食糧危機が起きた「チュニジアでのアラブな春の最初の抵抗運動は一連の食糧めぐる暴動にかき消されてしまいました」
- \* オプションとデリバティブの方程式～ブラックとショールズ(ハーバード大学経済学者)は一般常識を根底から覆した、二人は一つの方程式にリスクを閉じ込めた、そのブラック-ショールズ方程式がオプションとデリバティブの基本となり、今では1千兆弗もの価値を持つ市場を作った、その規模は地球上で生産される全てのものの価値の10倍に上る。この理論の実践例は1973年エジプトとシリアとイラクの率いるアラブ諸国がイスラエルに侵攻、イラン国王は「原油価額は世界的に値上がりし10倍になると言っておきましょう」と発言し OPEC は突然原油価格を値上げした、原油価格は青天井で上がり続け、そのまま高止まりした。ブラック-ショールズ理論の実践例だ。  
～この方程式は山火事の様にあつと言う間にウォール街に広まった、ロバート・ダールは住宅ローンに狙いを定め、証券として売買させる、皮肉なことに、その証券は安全でも何でもなかった。ウォール街は現物の売買を辞めた。今後リスクを取ら無くなつた企業は泳ぎをやめた鮫と同じで溺れて死ぬという事だ。  
～2010年その爆弾は北アフリカに落とされた、食料価格が何の明らかな理由もなく高騰した、小麦に空売りを賭けるという ABCD の決断はアラブの春以降の7年間に、この地域から避難した人数は第二次世界大戦の死傷者の数より多かつた。
- \* サブプライムローンとして復活～金融危機で敗北を喫したウォール街は教訓を学び2016年にサブプライムは復活バンク・オブ・アメリカ等前回の金融危機で責任を問われた銀行が3%を斬る頭金で再び住宅ローンを貸し出して借り手は唯収入を書くだけで裏付けとなる証明は必要ない、政府が提供するパーソナルファイナンス講習だけ。中国人民銀行総裁は2016年中国の不良債権を甘く見てはいけないと世界に忠告、債務は凡そ10兆弗と推測される、欧米の銀行債務が些細な額に見える程だ。
- \* グローバルな水供給の取引へ～家庭用の水道料金は1千ℓでおよそ1、5ドル飲料水ならペットボトル1本3～4ドルと28%も高い、今後、水不足は更に深刻になり、食品製造の拠点は水資源のある豊かな国に移る。水は輸送しても儲けられないが先物で儲かる。2014年トヨタは水素燃料自動車を開発、

燃料の副産物として水を生み出す自動車だ、今こそ化学式から水とエネルギーを作るべきだ、水をつくる為の化学式は極めて単純なのだから。

# tax { 第3章 租税回避のカラクリ } 租税回避はどのように合法化されたのか発端は1969年重税に首を絞められたビートルズのジョン・レノンに二人の男が魅力的な提案を持ちかける。

- \* 私達はどこで得をし何処で損をするか？～消費者の恩恵は微々たるものアマゾンで少し安い買物の選択を選び国民保健サービス、子供の教育、大切な公共サービス、基本的なインフラへの再投資に使われる筈の莫大な税収の喪失に目を背ける。
- \* 租税回避はいかに合法化され、税金は「下層の人達」が支払うものになったのか。「ジョン・レノン＝第一次感染源」～1969年ジョン・レノンは大手監査法人に勤めていた二人を紹介され、税金の支払いをゼロにしてみせるとの話に乗った。二人は市民の責任を果たすという戦後社会の礎を根底から覆した、富を作り出す人の義務は、社会にカネを還元ではなく、あの手この手でそれを避ける事だという文化を作った。租税回避は合法になる運命だった、イギリス政府も手を貸して1969年ケイマン諸島に総督を置いた。米英法と大陸法の一番の違いは米英法が禁止事項だけを規定し、日本・独・仏採用の大陸法は許される事だけを規定している、結果、米英法の国ではヘッジファンド等新たな金融イノベーションが起き易く、誰かが止める迄は好き勝手。
- \* サッチャー、レーガンによる減税革命～1979年自由世界で最も強力なリーダー2人は政府を信用しなかった、経済の最善策を市場に決めさせる革命の核心は減税だ。
- \* 紙ナプキンの落書きが、ネオリベリズムの理論的支柱に～それが「ラフファー曲線」で減税による革命の為に侵してはならない神聖な理論になった「税率は下げれば下げる程、長期的な経済成長は高まる」と云い、ラフファーはレーガンお抱えになった。米国、欧州でも租税回避は事業活性化の方策として生まれ変わった。米国と英国は税金と雇用を海外に移転し製造業を破壊した。歳入関税庁のお得意様であるグーグル、フェイスブック、スターバックス、アマゾン等どの税金を支払うか自分で決める
- \* ケイマン諸島のライバルはスイスやシンガポール～ケイマンの本当の機能、最大の秘密は外国企業が外国企業と知られず米国企業や工業インフラを買い上げる仕組みを提供で体の良いポートフォリオ投資は2015年ケイマンが IMF に報告の資産額は610億弗だがアムステルダム大学の調べで本当の資産額を2兆5740億ドルとした、報告より42倍の差は公式な資産にはヘッジファンドが含まれていなかったから。このヘッジファンドは米国に気づかれない様に企業を買い漁り本当の国籍は不明だ。中身を理解するには対内投資と対外投資でその差が一番大きいのは日本の数字だ、2015年対内投資510億弗、対外投資5580億弗、日本に還流は5千億弗の1割以下で香港と日本の投資家はケイマン経由で巨大な米国株式市場に隠れ蓑で投資だ。然しケイマンのポートフォリオ投資の9割は米国1、2兆弗・日本5580億弗・香港3430億弗・英国910億弗・ルクセンブルグ830億弗、

- そしてブレクジットとトランプ後の世界は英国がモノ作りを完全に諦め、2017年2月に財務大臣を務めたオズボーンは実体経済が最早政府の優先課題ではない事は明らかだと語り、つまり減税が唯一の生き残り戦略だという意味だ、今はタックスヘイブンに
- \* 米国をつまみ食いする中国企業と日本企業～2016年オハイオ州モレーンで中国の巨大ガラス企業が2千人の雇用を生み出し、トランプ王国の心臓部で支持者は手放して喜んだがケイマンを使い米国製造業の雇用が戻る事の愛国心は矛盾している。
  - # **wealth** { 第4章 **貧富の格差で大儲けする** } 2006年、ハドソン川を見下ろす49階会議室でシティグループの凄腕バンカーが貧富の二極化を予言、顧客達は驚き喜ぶ、金儲けのチャンスだ、と。
  - \* 地球上の富の半分近くを、8人が所有している～メキシコの通信王カルロス・スリム、ビル・ゲイツ、ザラ創業視野のアマンシオ・オルテガ、ウォーレン・バフェット、アマゾンのジェフ・ベゾス、フェイスブックのマーク・ザッカーバーグ、オラクルのラリー・エリソン、マイケル・ブルームバーグ
  - \* 世界で最も著名なバンカーの予言～世界第4位の銀行シティグループのトビアス・レヴコヴィッチは賢い男だ、2006年レポートで歴史上例を見ない程の極端な二極化が進み1%ではなく0.1%だ、2015年迄に世界で最も裕福な百人が世界人口の半分と同じだけの資産を持つようになると予言した、実際は8人だった。
  - \* ロンドン市民の28%が貧困認定されている～三分の二はギリギリのところ、生き延びている、平均的な世帯の週給は429ポンドで10年間2006年と変わっていないが、最も金持ちの千人は同期間に年収は2千億ポンドから5千億ポンドに上がっている。
  - \* 私達は皆平等に不平等になっている～1820年から1990年迄に豊かな国に流れ込む収入は全世界の2割から7割に上がった、しかしこの20年で劇的に下がり1900年の水準迄戻ってマウイもスペインも米国・英国も私達は皆平等に不平等になっている。
  - \* 量的緩和の95%は1%の富裕層へ～2008年の金融機関が破綻、しかし救済資金の95%は経済全体を救うはずが救済の原因を作った超金持ちや銀行が懐に入れた。
  - \* なぜ中流の存在が大切か～今、世界で一番注目されているトマ・ピケティは1945年から1978年にかけて歴史上のどの時代より富が平等に分配されその前後は巨大な格差、1930年代と今の時代だ。中流層がこれから数十年減り始めれば、民主主義が脅かされる事になると。1980年サッチャー首相は、トップ1%への大幅減税が不況を脱出する道だと確信していた、21世紀の格差の概念が生まれ、英国歴史上先見の明のある首相だったが、現実的な裏付けがなかった。
  - # **food** { 第5章 **肥満とダイエットは自己責任か** } 1945年 NY生命保険会社の統計家が昼休みに閃いた、肥満の基準を変えれば一夜にして保険料を高くできる。結果、米国人の大半が“太り過ぎ”となった。スーパーに行けば、肥満を全方向から一目で見ることが出来る、あらゆる角度から儲けのチャンスを分析した企業が人を太らせ、痩せさせている。

科学者とビジネスマンが私達の口に入るモノを根本的に変えようと動き出していた。その過程で交わされた密約が、人類の姿を変える事になった。

- \* 保険を売る為に生み出された肥満～本物の肥満が蔓延する40年も前にメットライフは米国中の食料品店、医師、スーパーマーケットと組んで企業ロゴのついた体重計を設置し始めた、心配した人達が医師に行くと「新しい BMI の計算では健康リスク」と、念押しされた。全国的な肥満パニックの様子が新聞で報道された。
- \* 飢餓実験で判明、ダイエットが太る体質を作る。
- \* スリムとファースト二つの言葉で科学者のダニーは60億ドルを稼いだ。
- \* ダイエットとリバウンドを繰り返させて“金ずる”にする、84%が“金ずる”になる。
- \* 肥満になるのは食品会社のせい～国連は肥満を21世紀に最も急拡大する健康脅威とし、英国人の6割、米国人の75%は肥満、1980年代に飢饉に襲われたエチオピアも又肥満の危機に面している、貧乏人だけでなく金持ちにも襲い掛かる。
- \* **なぜ我々は太ってしまったのか**～長寿の研究で分ったのは食品に含まれる**糖分量**だ
- \* 食品-脂肪 = 食品+糖分 = 肥満～1971年ニクソンの再選挙で深刻な問題は食品価格の高騰で生き延びる為に農家を後押し、シトウモロコシを増産多くの食品に使われて全ての物が安くなり米国農民はグローバル市場を支配する億万長者になった。
- \* 脂肪を悪者にして、砂糖を無罪放免に～**異性化糖は考えられる全ての商品に入**った、中でもソフトドリンクが肥満を生み出すことになる。
- \* 低脂肪食品で肥満が爆発的に増えたのはなぜか～好きな物を好きなだけ売り物にしていた魔法の食品は脂肪を取り除き、糖分で埋め依存症の引き起こしも。
- \* 食品業界は5分で大統領を電話口に呼び出せるロビイストも必要ない位に力がある。
- \* アマゾン先住民にアイスやチョコを配るネスレ～伝統的な食習慣が崩壊し肥満増加インドも同じ道をたどっている、都市化と肥満化が同じ道を辿っている、21世紀の進歩フランスは西側諸国で最も肥満の少ない国の一つで地産地消文化を維持し家庭料理を今も大事にしてフランス料理に誇りを持っている。同じ頃、都市に異動した中流層のブラジル人は体重を減らし健康を保つためにアマゾン式ダイエットを取り入れるようになっていく、これが正に21世紀の進歩、インドも同じ道を辿っている。仏は西側諸国で最も肥満率の低い国の1つで地産地消を維持し、家庭料理を大切にフランス料理に誇りを持っている。
- \* 食品業界を恐れる科学者～医療関係者は食品操作と人口の肥満化の因果関係を見過してきた、科学の独立研究への予算は雀の涙で食品業界は研究者にとって欠かせない資金源になった。1997年 WHO が肥満は社会の悲劇ではなく「**集団疾病**」とする報告書を発表、深刻な健康被害という事になり、金儲けを狙う人達にとって又とない助けとなった。
- \* 製薬会社の資金援助そして BMI の“**太り過ぎ**”基準は27から25に、この線引きは数十億人の未来の健康に影響を与える事になり

一夜にして莫大な人口が製薬会社のお得意様になった。

# drugs { 第6章 国民全員を薬漬けにする } ~ 国民全員を患者にして儲けたい製薬業界が1980年ファイザーの、雇われ弁護士事務所が、ある法案を提出し、政府が国民を製薬業界に売り渡した瞬間だった。

\* 鬱、肥満、認知症というビッグスリー ~ 2000年に米国で5種類以上の処方薬を飲んでいた成人は8%それが20年もたたない内に倍になった。

\* 製薬業界から大学研究室に直接献金が可能に ~ 有力な上院議員のボブ・ドールはレーガン大統領の友人でもあり製薬大手のファイザーに雇われた大手弁護士事務所取締役だった、1980年ドールは製薬会社から大学研究室に直接に資金提供の門戸を開く法案を提出。プライマリー・ケアの第一人者として世界的に有名なハーバード大学のジョン・エイブラムソンも支持を求められたが断った「50年後に米国市民がこの時を振り返り政府が国民を製薬会社に売り渡した瞬間として思い出さだろう」と語った、法案は成立し世界に聞いたことのない様々な病状を基にした“病気”を経験することになる、薬が大学に送られ大学は都合よく研究を操作、独自性の仮面をかぶって製薬会社の為に臨床実験、米国民の知らない新しい病気を作り出す。

\* 手のかかる子は ADHD として薬づけに ~ 米国では4歳から17歳迄の子供の11%は(約6百万人以上)が ADHD と判断され、この数は10年で倍、毎年増加。

\* 誰もが逃げられない病気とは「危険因子」リスクだ、癌にかかる危険因子は20通りあり、それを押さえる20種類の薬を差上げますと、薬漬けの社会を作り出す決め手

\* 20世紀の経済格差は21世紀には生物格差に ~ 遺伝子編集も又人類の運命を大きく左右する可能性があり国際的な行動規範を決めるべき。

( 後編へ )